

OPINION

中部経済新聞



厚い恩典で早期退職できること、この三つの柱に基づいた物語は、現実には今やより厳しい検証にさらされつつある。

一方で、これに関連する多くの論争的となる複雑な問題が、数十年間主流となってきた「中道」政党によって意

欧州は安全で安心できる場所であること、高額であつても依然として管理可能なコストで厳格な「グリーン・ディール」政策を採用し世界の良き市民であること、また移民受け入れが根底にある福祉危機を解決し、さらに誰もが手

日本への期待 世界各地から

175

欧州の現在と不確実性に関して

図的に無視されてきた。中道左派から中道右派までの幅広い政党群は、大半の民主主義国でその勢力を縮小しつつあるものの、依然として過半数を占めている。これらの問題とは防衛費の支出、産業・エネルギー・環境政策、移民、福祉、そして公共の安全に関するものである。

困難な決断や選挙そして新たな連立政権の誕生につながるような可能性のある激しい議論を避け、安易な妥協を免れるために、これらの問題をただ無視することが良い政策

方向転換し始めているのか (中)

と見なされてきた。しかし、それは単に現実からの逃避に他ならなかった。

これには、同一党派内で沈黙を破ろうとする少数の声に対する厳しい排斥がしばしば伴い、政治的立場の右派・左派を問わず、まさにこれらの問題の解釈を利用し勢力を拡大しようとするポピュリスト運動の台頭を助長してきた。

このような運動が自らの勢力の源泉となっている問題に対して真に解決策を持っているかどうかは、明らかに未解決の課題だといえる。中道勢力

がこれらの問題への取り組みを開始すれば、ポピュリスト運動は選挙基盤を奪われることになりかねない。

一方ビジネス界も、その影響を免れることはできなかったが、その色合いは少し異なっていた。多くの年輪を重ねた企業は、現状に対する変化の兆しを「既存の収益構造の味、われわれは神話的で大規模な「創造的破壊」に直面しており、それに新しく迅速かつ精緻な対応が求められている」ということだ。

に、自らようやく気づきはじめる。現在起こっているのは、多くの経営者や多数の一般市民が、いわゆる「従来の状態」や「これまで通りのビジネス」はもはや通用せず、おそらく二度と元には戻らないと気づき始めていることだ。ある意味、われわれは神話的で大規模な「創造的破壊」に直面しており、それに新しく迅速かつ精緻な対応が求められている」ということだ。

だが、それらの一部はすでにヨーロッパにおいても、しばらく前から形づくられていた。実際、平和が保証されていない不確実な世界についてあえて語ることとは、今や広範な欧州の社会層に定着しつつある。ウクライナでは、従来の非常に高価で調達に時間を要する兵器システムを補完し、場合によってはそれに取って代わる、低価格で適応性の高いドローン技術に基づいて近代戦争の法則が書き換えられつつある。欧州各国軍の防衛体制に今や認識されている大きな穴を埋めるため、欧州全土で防衛系スタートアップ企業が設立されつつある。

【ルジェロ・ウィズレル、
リーム中産連】